

『日本経済 見捨てられる私たち』 山家悠紀夫 著

第16話 なぜ「小さな政府」がいいとするのか、政府が説明するその理由についての話。あわせて、その理由はきわめて根拠薄弱である、という話

第17話 「小さな政府」は「(国民の自己負担の) 大きな政府」をもたらし、人々の生存権を侵す、という話。あわせて、それでも「小さな政府」を目指すのはなぜだろうか、という話

を読んで、保育所の民営化について、考える。

「白書」は、病院、訪問介護、保育所について、官と民を比較し、民のほうが生産性が高い、という試算結果を紹介している。だから、これらの仕事は民に任せて、官は手を引いた方がいい、「小さな政府」の方がいい、と主張している。

そして、「小さな政府」を標榜しての、政府サービスの圧縮、民営化、民間委託等は、人々の暮らしにどう影響するのか、保育所の民営化を例にとり、考えてみる。

① 公立と私立の保育所運営費の差はなぜ生まれるのか

公私の保育所運営費の差は、そのほとんどが人件費によるものである。その人件費総額の差は、保育士の年齢構成のちがいで生じている。

そして、保育料は、市が徴収する。市は、国、県からの補助的予算を含め、その他さまざまな計算式にもとづいて算出された運営費を、各保育所に支払っている。つまり、私立保育所の運営費も、基本的には全額公費ということである。

ところが、その私立保育所の運営費を計算するための計算式が、保育士の経験・勤続年数による給与の上昇を保障していない。だいたい、勤続5年で、私立保育所の保育士の給与は頭打ちになる。市は、公立保育所の保育士には、地方公務員としての給与を支給しながら、民間保育所の保育士の給与については、勤続5年程度で頭打ちになるような金額しか支払っていない。

つまり、民間保育所は、若い保育士を中心に雇うことによって保育所運営費が節減できているというのではなく、安い保育所運営費しか保証されていないがために、ベテラン保育士を雇うための経済的余裕がないということなのである。

そして、民間保育所にベテラン保育士が少ないことが、保護者の不安につながり、保育現場にいくつかの深刻な問題を引き起こしている。

② チームワークによる保育実践

保育は、担任の先生だけが行っているのではなくて、先生方のチームワークでなされていて、それが、保護者の安心感を生みだしている。

保育士のチームの年齢構成に均衡がとれていれば、子どもを見る目は、より多角的で重層的なものになる。逆に、年齢構成に偏りがあれば、同じ次元の目の数が増えるだけで、子どもを見る見方に深みが生じにくい。

民営化によって、そのチームワークが解散されてしまう不安がある。

③ 保護者への子育ての助言

保育士は、子どもだけでなく、親の様子も常に見なければならない。そういう意味でも、経験豊かな保育士が十分にいない保育所には、親は不安を覚える。ベテランの保育士は、保護者にとって、ただ年上の保育士というだけではなく、自らも子育て経験のある保育士は、保育の専門家であり、人生の先輩であり、子育ての先輩であり、さらには、育児をしながら仕事を続けた親、保育所に子どもを預けた親、としての先輩であり、多重な意味で、ベテランの保育士の存在が必要なのである。

④ 保育実践の蓄積と継承

若い保育士は、現場で、先輩の保育士たちの保育を見ることによって、また、指導・助言を受けることによって、保育士として成長していく。その現場に、ベテラン保育士がほとんどいないというような場合、成長、熟練は難しいものになる。

老・壮・青という、年齢構成のバランスが大切なのである。

⑤ 保育士の安定雇用（身分保障）の問題

身分が安定していて、継続的に雇用される保育士集団は子どもたちを安心させることができる。保育士の入れ替わりが激しいと、子どもたちは不安になる。

民営化による保育士の身分の不安定化、労働条件の悪化が心配される。

⑥ 子どもたちのダメージ

民営化による環境の変化や、保育士の入れ替わりが、子どもへの精神的なダメージ、ストレス、負担となる。

【まとめ】

民間を中心に、社会保障を実現していくのであれば、民間に対する財政支援と、公的な監督・指導の体制を確立しておくこと、の二つは必要条件である。しかし、今の時代の流れは、福祉分野の財政支出削減と、規制の緩和という方向にある。民営化の前提たる条件は、二つとも満たされていない。

そもそも、保育福祉という分野は、民営化には向いていない。保育は、働かなければならない、切羽つまった状況の親の需要を満たさなければならぬ。市場主義にそぐわないという意味で、民間向きではない。

また、本来、儲からない分野で、まじめにやればやるほど、儲からない。

保育福祉にかかわる公的な責任を、限りなく後退させていこうとする流れの中での民営化である。

「小さな政府」を目指すことが、人々の暮らしに問題を生じさせるようであれば、全くの本末転倒であり、早急な政策転換が求められなければならない。

参考文献

- 山家悠紀夫 『日本経済 見捨てられる私たち』 青灯社 2008
- 伊丹市 『伊丹市立保育所民営化計画（案）』 2007
- 伊丹市 『伊丹市立保育所民営化に関する提言書』 2007
- 伊保連 『伊丹市立保育所民営化計画（案）に関する
疑問、問題点』 2007
- 伊保連 『第2回伊丹市立保育所民営化問題に
関する懇談会資料』 2006